

～海運の重要性を学校教育の場で～
浜松市内の中学校教員を対象とした海事施設の見学会を開催

当協会では、日本を支える海運の役割や重要性を学校教育において取り上げていただくよう、教育関係者に対し商船をはじめとする海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しております。

この度、(公財)日本海事広報協会と協力し、浜松市中学校社会科研究部の教員 約 30 名を対象とした静岡県御前崎港の見学会を 8 月 2 日 (火) に実施いたしましたので、その模様をお知らせします。

冒頭、当協会から一般や教育関係者向けに配布しているオリジナルノートを使用し、御前崎港で最も取扱量の多い完成自動車の輸出、自動車部品や原材料の輸入を含めて、自動車産業における船の役割について紹介しました。



引き続き、御前崎市港管理事務所の担当者より、県内を代表する完成自動車輸出港である御前崎港の概要、役割や重要性について物流、貿易、環境等の観点から説明がありました。

その後、御前崎港内をバスにて移動。自動車ターミナルでは、寄港していた自動車専用船や荷役を控えた完成自動車を見学し、ターミナルにある完成自動車が一度に何百台も船に積み込まれて外国に輸出される等の説明を受けました。





また、コンテナターミナルでは蔵置されたコンテナや巨大なガントリークレーンを見学し、教員からは「想像以上にガントリークレーンが大きい」といった声があがっておりました。他にも寄港していた内航貨物船や建造中のバイオマス発電所も見学することができました。

見学会終了後、授業での活用など広く生徒に海上輸送等の役割を広めていただくことを期待し、日本海事広報協会や当協会が制作した海運に関する各種資料やグッズを配布しました。

教員からは「静岡県が世界と繋がっていることを改めて認識できた」や「普段見られない部分について説明があり、授業に活かせるものも多くあった」といった感想が寄せられました。

当協会では、今後もこのような社会科研究部との繋がりを活かし、学校授業に海運をより取り入れてもらうべく、活動を推進してまいります。